

## 5-8 参考推計

参考推計としたケースの結果を示す。

### 5-8-1 流入、離職傾向(残存率)の参考推計

表 5-7参照。

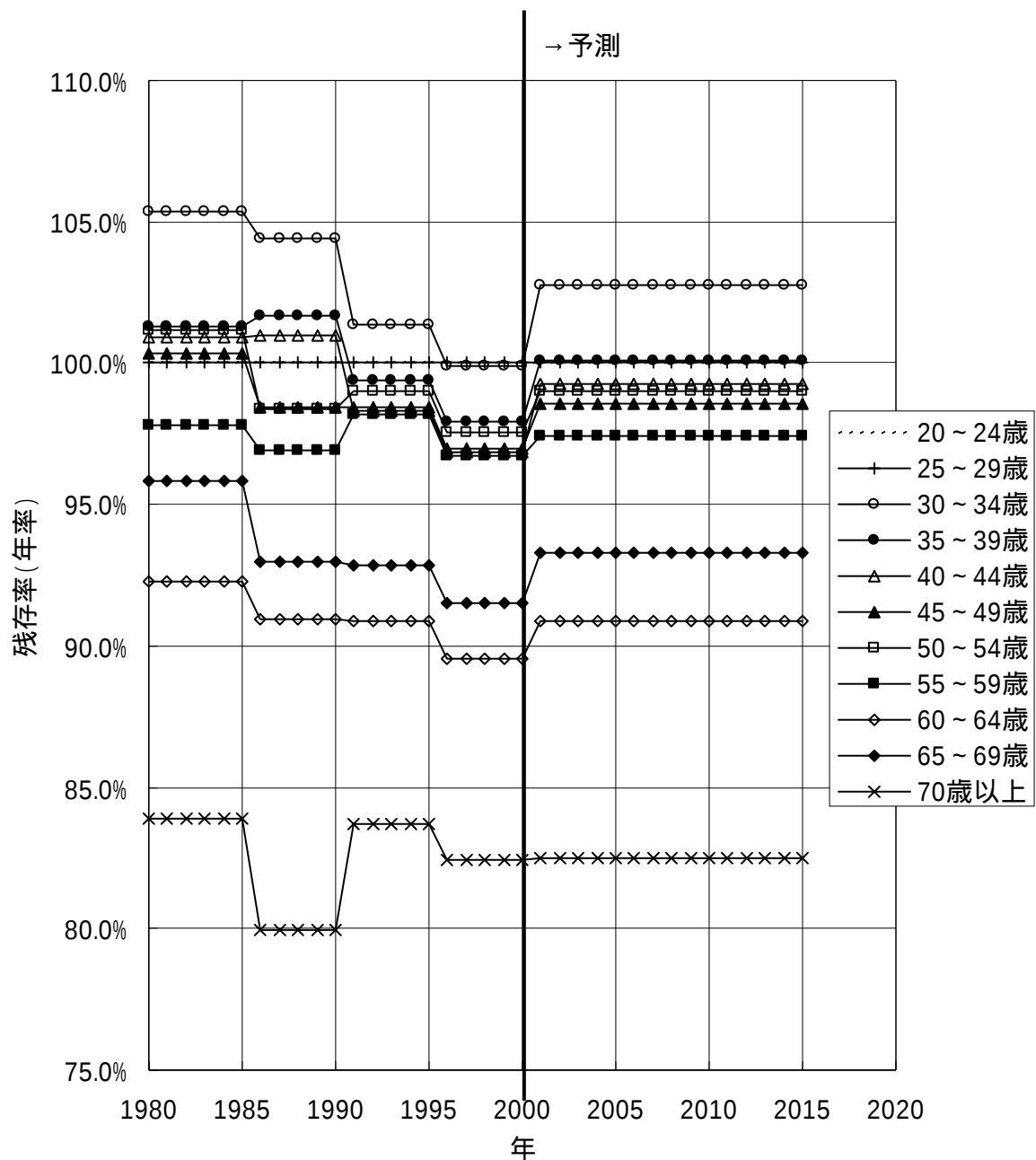


図 5-8-1 残存率の推移と予測(参考ケース 3)

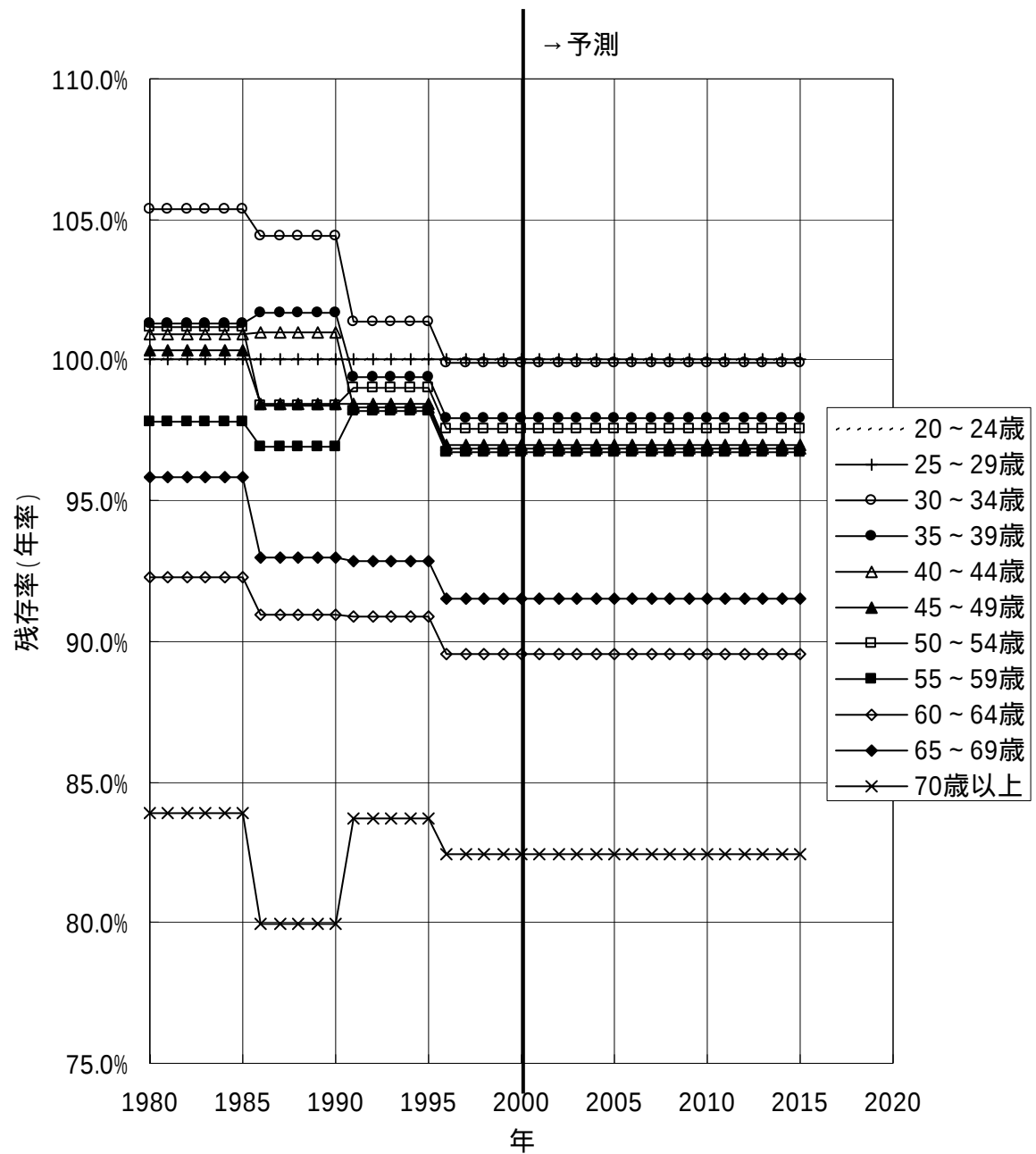


図 5-8-2 残存率の推移と予測 (参考ケース 4)

## 5-8-2 供給の参考推計結果

表 5-8参照。

### 5-8-2-1 (参考) ケース a3 の供給推計結果

学部入学率は平成 14 年の水準が今後も続き、各年齢区分の将来の残存率は、1981～2000 の残存率の平均値で推移する場合。20～24 歳、25～29 歳の残存率を 100%と仮定している。

研究者の総数は、増加を続け、ケース a1 と比較してその増加が大きい。年齢分布についても、30～40 代のピークが発達していくような分布で推移する。

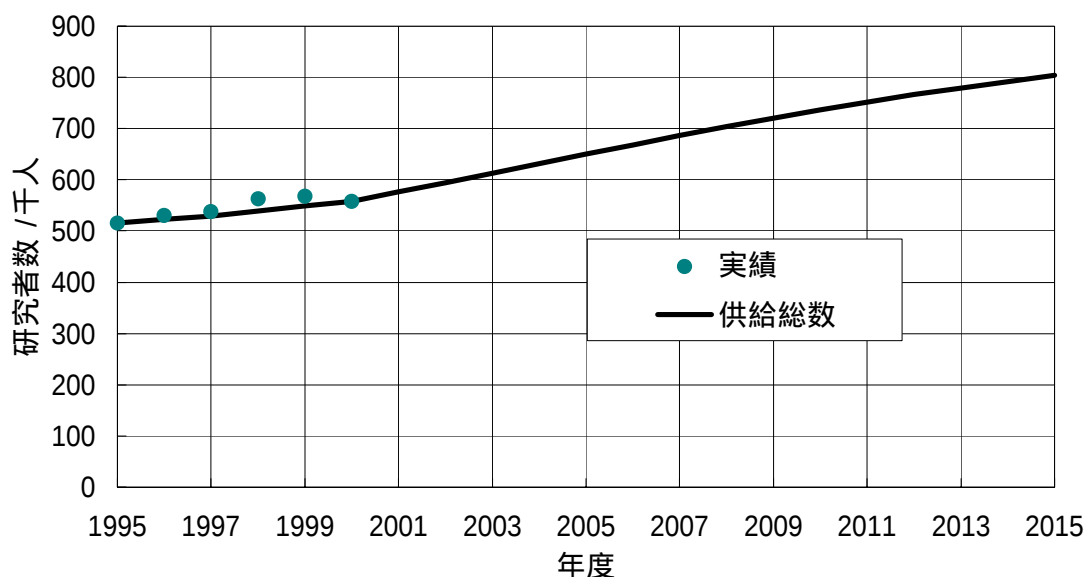


図 5-8-3 研究者総数供給予測(ケース a3)

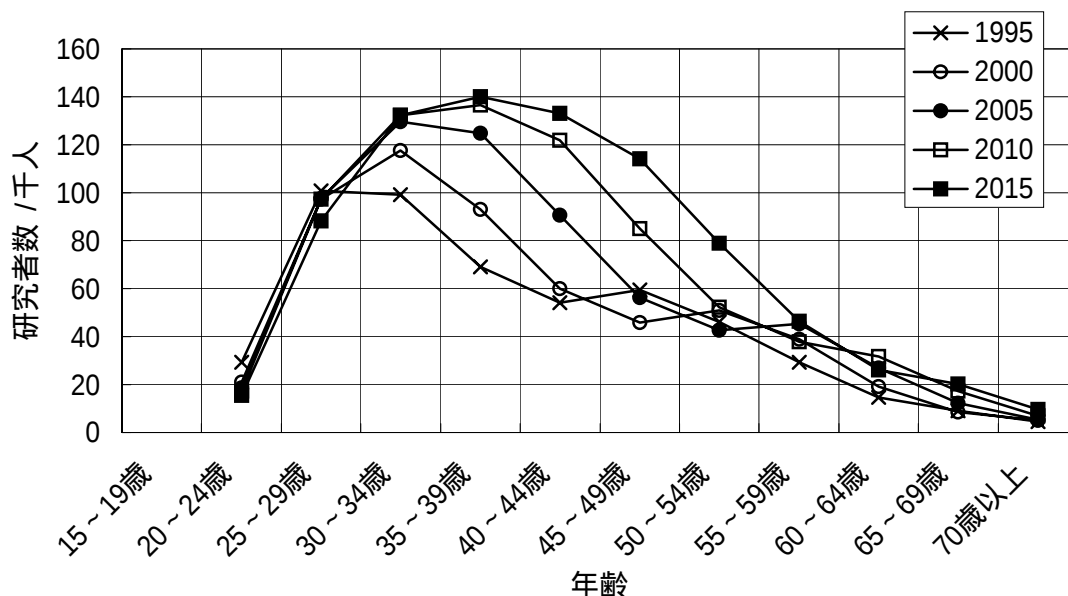


図 5-8-4 研究者供給の年齢分布(ケース a3)

### 5-8-2-2 (参考) ケース a4 の供給推計結果

学部入学率は平成 14 年の水準が今後も続き、各年齢区分の将来の残存率は、直近の 1996～2000 の残存率で推移する場合。20～24 歳、25～29 歳の残存率を 100%と仮定している。

結果はほぼ a2 と同様である。

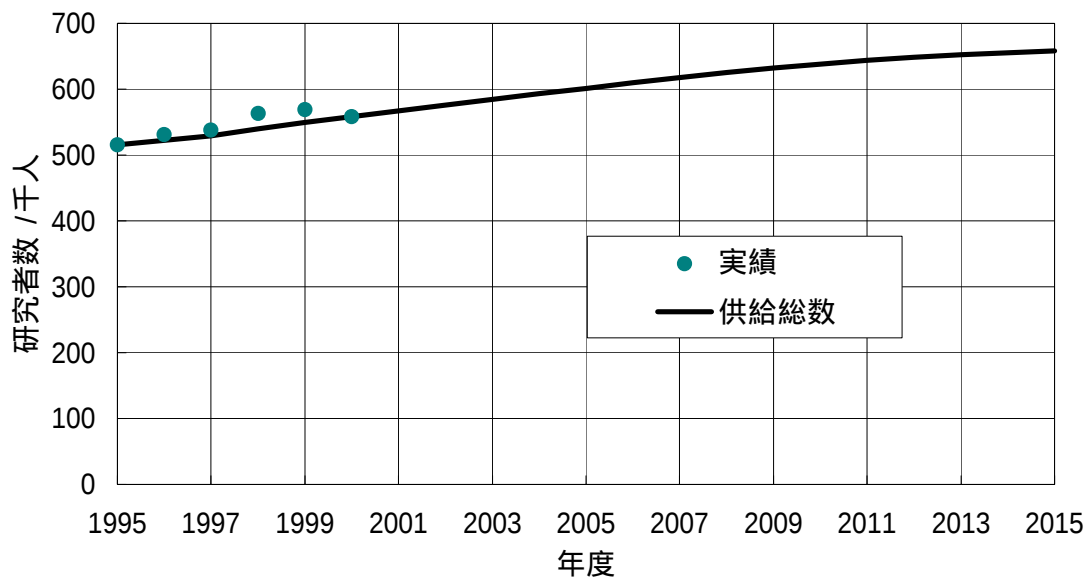


図 5-8-5 研究者総数供給予測(ケース a4)

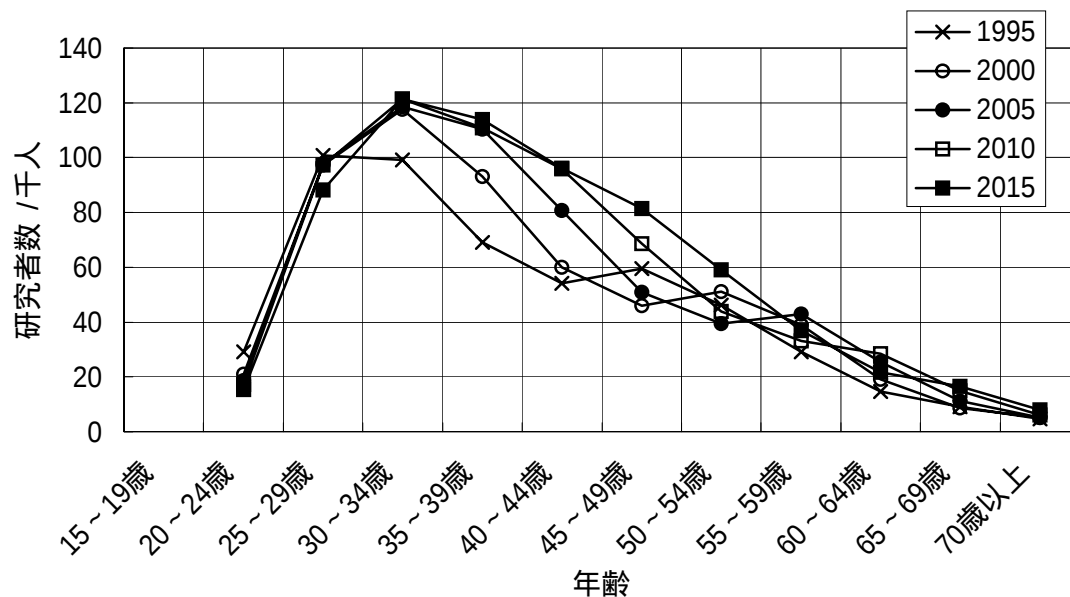


図 5-8-6 研究者供給の年齢分布(ケース a4)

### 5-8-2-3 (参考) ケース b3 の供給推計結果

学部入学率は今後もトレンドで増加を続け、各年齢区分の将来の残存率は、1981～2000 の残存率の平均値で推移する場合。20～24 歳、25～29 歳の残存率を 100%と仮定している。

研究者の総数は、増加を続け、ケース b1 と比較してその増加が大きいく。年齢分布についても、30～40 代のピークが発達していくような分布で推移する。

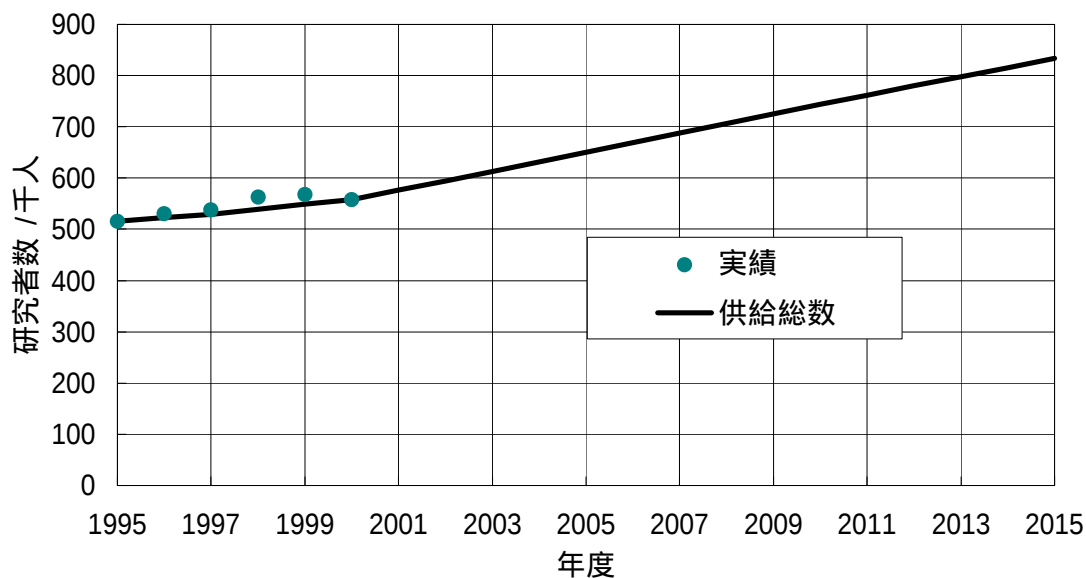


図 5-8-7 研究者総数供給予測(ケース b3)

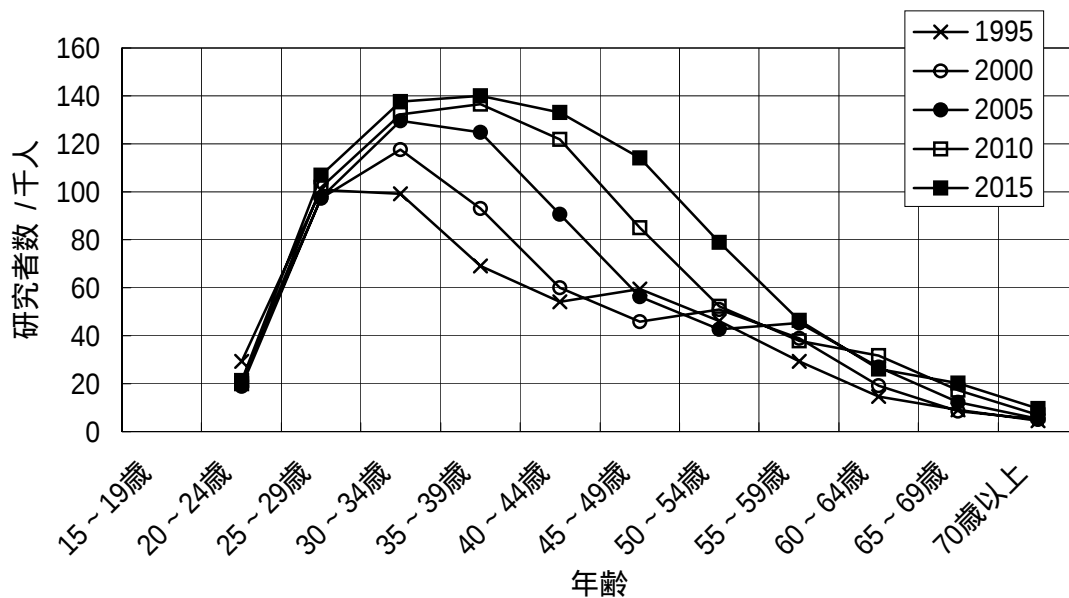


図 5-8-8 研究者供給の年齢分布(ケース b3)

#### 5-8-2-4 (参考) ケース b4 の供給推計結果

学部入学率は今後もトレンドで増加を続け、各年齢区分の将来の残存率は、直近の 1996～2000 の残存率で推移する場合。20～24 歳、25～29 歳の残存率を 100%と仮定している。

結果はほぼ b2 と同じである。

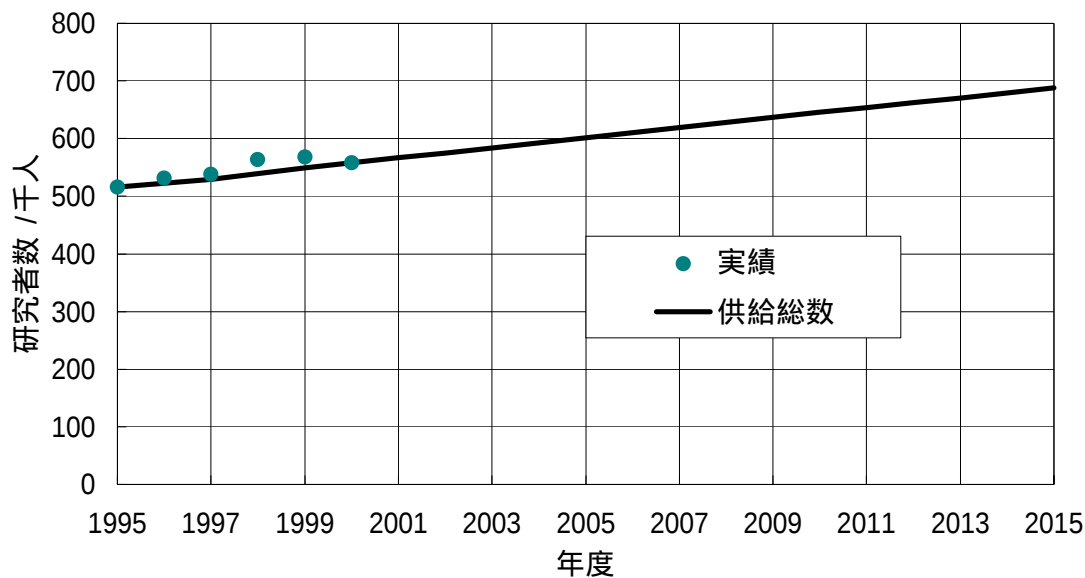


図 5-8-9 研究者総数供給予測(ケース b4)

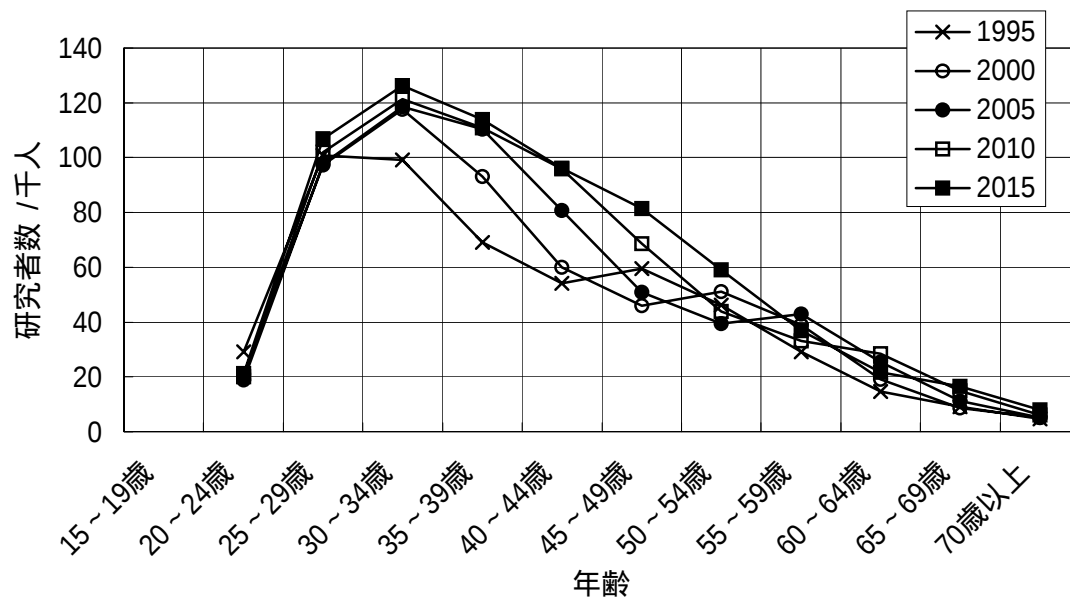


図 5-8-10 研究者供給の年齢分布(ケース b4)

## 5-8-3 需要と供給の関係(参考推計)

### 5-8-3-1 (参考)研究者総数

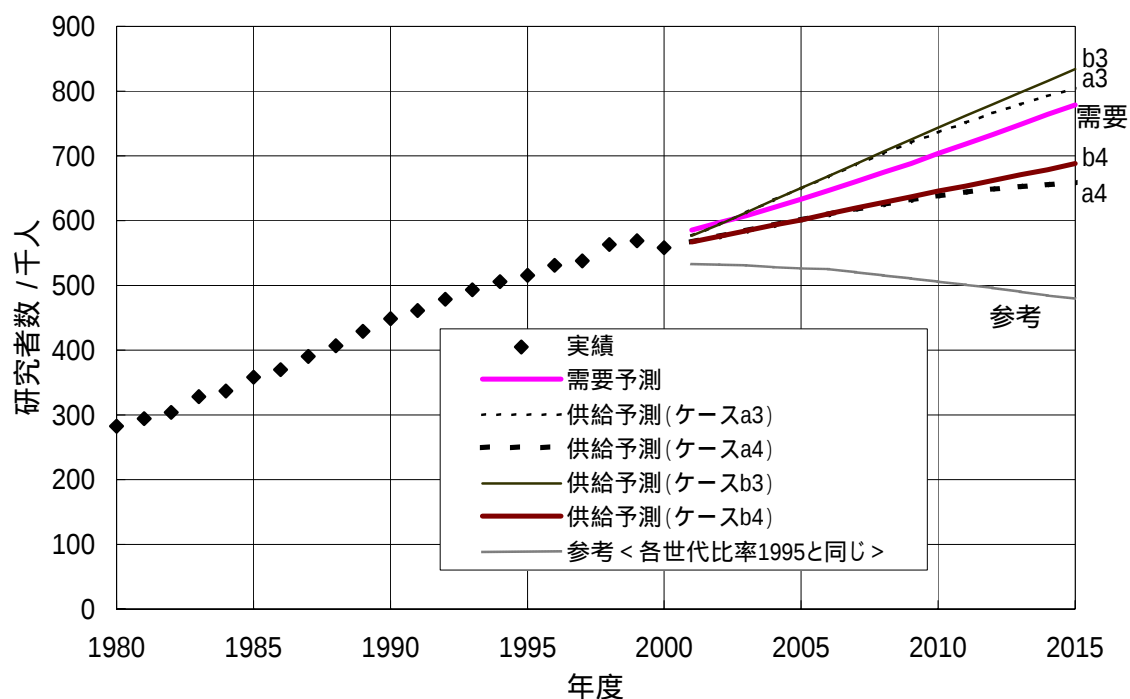


図 5-8-11 研究者の需要と供給の関係(ケース a3、a4、b3、b4)

a3、a4、b3、b4 について見ると、直近の残存率で延長した a4 と b4 は、図 5-6-1 に示した a2 と b2 とほぼ同様の結果である。一方、a3 と b3 は、図 5-6-1 に示した a1 と b1 に比較して研究者数の増加が大きくなっており、需要を上回っている。

### 5-8-3-2 (参考) 年齢別研究者数

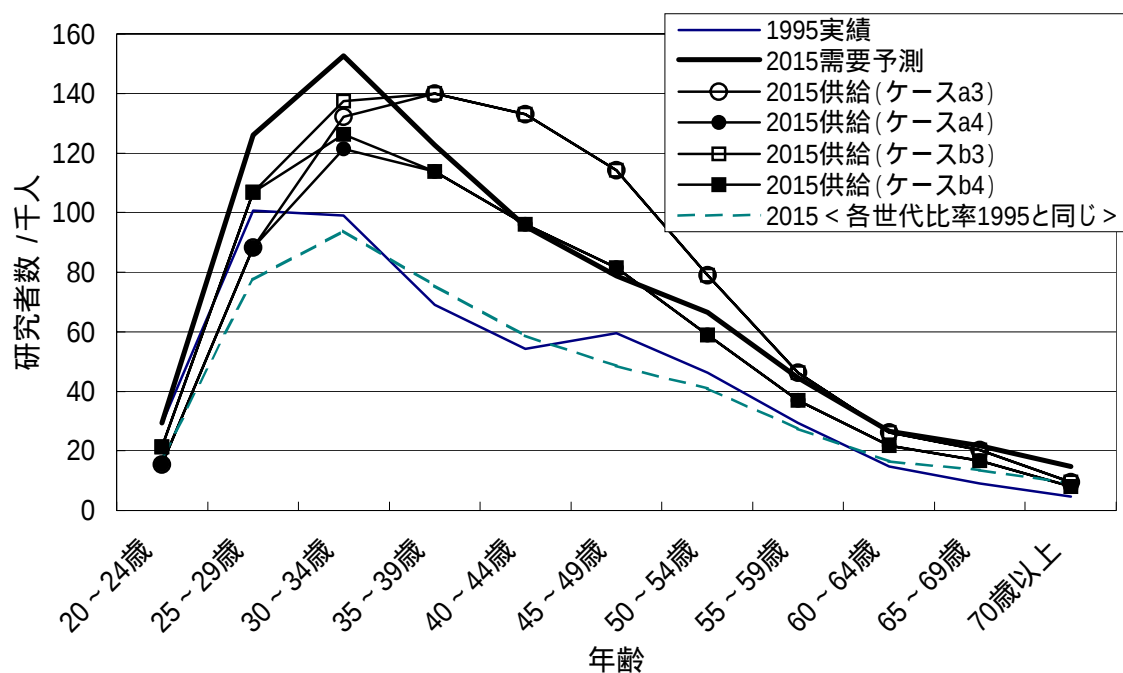


図 5-8-12 年齢別研究者の需要と供給の関係(ケース a3、a4、b3、b4)

ケース a3 とケース b3 を見ると、需要と比較して、40 代を中心とした年代の研究者数が多くなっている。  
a4 と b4 については図 5-6-2 の a2 と b2 と同様である。